

著書、学術論文等の名称	単著 共著 の別	発行又は発表 の年月	発行所、発表雑誌 等又は発表学会等 の名称	概 要
1 ( 著書 ) 『施設実習の手引き』	共著	2017 年 3 月	溪水社	<p>著書全体の概要： 本書は、保育士をめざす学生の施設実習の手引きとして作成されたものである。 (総ページ数:117 頁) (著書全体の著者名:西川ひろ子、山田修三、中原大介編著、岡本晴美、ほか 12 名、計 16 名) 担当部分の概要:「第 1 章 第 3 節 施設保育士の職務内容」「第 1 章 第 4 節 施設保育士の資質と倫理」「第 8 章 第 4 節 表 8-2 児童養護施設での実習記録」「第 9 章 第 4 節 守秘義務」について」 (担当ページ:pp4-9、pp.80-81、pp.91-94 単著)</p>
2 ( 著書 ) 『ソーシャルワーカー論-「かわり続ける専門職」のアイデンティティ』	共著	2012 年 11 月	ミネルヴァ書房	<p>著書全体の概要： ソーシャルワーク実践とは、ソーシャルワーカーである“人”が、自らの“身をもって”ソーシャルワークの知識を活用し、方法・技術を駆使する営みである。本書は、ソーシャルワークを実践していく“人”に焦点を当てた論集である。実践者、実践の主体としての“ソーシャルワーカー”に特化させた点に本書の特徴がある。 (総ページ数:253 頁) (著書全体の著者名 空閑浩人(編者)、久門 誠、黒田由衣、田中希世子、野村裕美、樽井康彦、上野 哲、孫 希淑、岡本晴美) 担当部分の概要:「第 10 章 アイデンティティを育む職場環境づくり」を担当。ソーシャルワーカーがソーシャルワーカーであり続けることを支えるための職場環境について、状況的学習論の知見を援用しながら論じている。社会福祉の現場では、職員のアイデンティティを育み、次世代に伝える営みを支える仕組みが求められる。そのことは、同時に、職員個人として、また、職員集団としての専門性の形成・向上と継承をうながし、職場への職員の定着率も向上させるという相乗効果をもたらす。 (担当ページ:pp.212~235、単著)</p>
3 (学術論文) 「<協働するチーム>をつくるための研修プログラム開発の試み—『職場外研修』と職場での実践をつなぐチームング—」	単著	2018 年 3 月	『広島国際大学医療福祉学科紀要』,第 14 号	<p>論文全体の概要： 本論文は、職場外研修での学びを職場内の実践に反映させるための方策として考案した集合研修について、そのプログラム化の経緯、プログラム提供の実際、現段階での教育効果について、受講者の感想から意味づけていく試みである。「チームング」という考え方にもとづきプログラム化を試みた当該研修は、広島県社会福祉協議会（以下、広島県社協）との協働のもとに開発を試みた。人材育成において、昨今の施設は小規模化の流れにともない職員同士の学び合い、育ち合いが希薄とならざるを得ない構造上の課題を抱えている。そのような現場の状況においては、制約のある空間・時間のなかで、いかに効率的にコミュニケーションを図り、チームワークを発揮していくかが問われることになる。研修の受講者は、研修を通して、研修の場と実践の場である職場をつなぐために必要とされるチームワークについて学び、物事の見方のとらわれから解放することを助けるリフレーミングを手段として、研修の場で体験したことを職場の実践に反映させることを試みる。その試みの成果を再び、研修の場に持ちより、受講者同士でふり返りを行うことが効果的であることが受講者のアンケートから示唆された。 (当該論文のページ数：26 頁) (当該論文の著者名 岡本晴美) (担当ページ：61-86、単著)</p>